

# ROAD

シベリア鉄道 或る朝

何という駅だったのだろう。  
シベリア鉄道の客車のなかで酔ったような21世紀を迎えた翌朝のことだったと思う。  
ロシア号は、ついに私が長い間心に思い描いてきた通りの駅に止まった。  
その駅に着いたのは、朝8時頃だったのだろうか。  
時間はわからない。シベリア鉄道の時刻はモスクワ時間で動いている。  
モスクワとウラジオストクの時差は6時間もあり、時差は走り続ける列車の中で刻々と変わっていく。  
私の時計は日本時間に合わせたままになっているし、同室の人の時計はイルクーツク時間に合わせてある。果たして今が何時であるかを、生活感覚として理解するには、短くともひととりに数時間なりともとどまらなければ分からない事だけれど、列車はほんの数分くらい止まるとすぐに動き出し、時と逆流するかのようにひたすら東へと走り続けるのである。シベリア鉄道の旅は時の旅でもある。  
その駅に着いた時、進行方向からまぶしく輝く太陽が昇り始めていた。  
今日の仕事へ向かうのか、列車から降りた数人の男達が固まって足早に駅を出て行く。少し高台になった駅のホームには物売りの3~4人の女性達が、手作りの餃子や、ピロシキ、温かいジャガイモなどを売りに来ている。  
彼女達の肩越しには雪で白く埋まり始めた村が見えている。  
黒っぽい木造の家々の屋根から煙突が突き出し、朝もやの中に白い煙が上がっている。さっき駅を出ていった男達が向かう先には作業場が何か働けるとところがあるのだろう。そして、私の想像によると、駅から続く白い小道の先の林を抜けると小さな町があるはずである。  
そこにはいくつかの小さな店と、村人達の集まる酒屋、そして教会がある。  
列車が走り去ると物売りの女達は荷物を片付け、スカーフを巻き直して温かいペチカのある我が家へと帰って行く。

シベリアの遠隔な地方、荒野と山と人跡未踏の森の間で、時々小さな町に行き会う事がある。人口は千か、たかだか二千くらい、木造のみすぼらしい町で、教会は二つ…(中略)首都から来た連中のなかで、人生の謎を解くことのできるものは、ほとんど常にシベリアに残って、よるこんでそこに根を生やす。…  
…気候も申し分ないし、もてなし好きな金持ちや、裕福な異民族たち、お嬢さん達は薔薇のように咲き誇って…シャンパンや、極上のイクラ、野禽、野の収穫は内地の15倍もある…  
一般にいって、神の祝福を受けた土地なのである。  
ドストエフスキー『死の家の記録』より



# Information

前回の青空市は、大雪のためやむなく中止とさせて頂きました。基本的には、少々の雨でも決行という方針であるにも関わらず、中止に至ったこと、深くお詫び申し上げます。  
実はかの地はことさらに雪深いのであります。駐車場にも雪で入れず、四輪駆動車でないとも坂も上がれないという事態となりました。  
それでも、日曜日には留守番をし、いらっしゃったお客様には、何かしら見て頂く準備をした所、雪の中7人のお客様が来て下さいました。本当に、ありがとうございました。  
裏紙面INFORMATIONに掲載しました通り、鎌倉を舞台にした映画『ツィゴイネルワイゼン』が再び上映されるにあたり、ミルクホールでは上映記念の展示コーナーを設置致します。30代半ば以上の方でないこと記憶にはないと思いますが、当時は大変評判になった日本の大正時代を美しくアンニュイなイメージで描いた映画です。ミルクホールも病院の場面で撮影に使われています。  
公開は4月28日、渋谷シネセゾンにて。当店で前売り券も販売する予定です。



猫も色々遊び方を考えるとみえて、2匹でお互いが障子の反対側に隠れて、相手がどこから手(前足)を出すかのあてっこです。やりたい放題。いくら怒ってみても聞くもんじゃないですね。ゲーニー君に噛みつかれなくなってほっとしていたスタッフ達も、さすがにこのありさまには奇異の目で眺めるようになってきました。  
でもまあ、大人の猫になるまでもう少しの辛抱だとのんびり構えていたのですが、おさまるところか2匹はどどん狂暴化していくのです。  
障子の穴開けに飽きてしまうと、なんと真夜中に体当たりして障子戸を倒すのです。ものすごい物音に地震かと飛び起きてみると、暗闇で目をランランと輝かせたゲーニー君とスィーピーちゃんのしわざとわかるのです。おばあちゃんの思い出の品のお琴が立ててあるのを木登りがわりに遊んだ事も、とどまるところを知らません。  
さすがにお琴の件ではおばあちゃんも『ひどい事をする…』  
と泣くほどでした。  
先代のシュガーちゃんは、柱の爪研ぎさえ遠慮してしなかったものですが、ところがある晩、この騒ぎの中で不思議な出来事が起こったのです…

## 鎌倉の猫事情 第十六話

# COLUMN

大雪にたたられ、例年になく寒さに震えた冬の日にも、ようやく春の気配が入り込んできました。堀の向こうの梅の花がほころび始め、お天気のよい日に山を歩くと、どこからともなく鼻をくすぐるよい香りがしてきました。2月は鎌倉が一番美しい季節です。ゲーニー君とスィーピーちゃんも今が可愛い盛りです。人間の子供も『子供は5歳までに親に一生分の恩返しをする』といわれるほど、子供の頃は何だかってかんだって可愛いものです。例にもれず、2匹の子猫たちもまるで天使のように愛らしく、毎日一緒に遊んでいます。  
かなり欲目もあるとは思いますが…何と言っても彼らの一番好きな遊びは障子の穴開けです。毎日真新しく白く綺麗に貼ってある部分を見つけては、2匹で立ち向かって行くのです。小さい頃は届かなかった一番上の方だってもう平気です。  
猫も色々遊び方を考えるとみえて、2匹でお互いが障子の反対側に隠れて、相手がどこから手(前足)を出すかのあてっこです。やりたい放題。いくら怒ってみても聞くもんじゃないですね。ゲーニー君に噛みつかれなくなってほっとしていたスタッフ達も、さすがにこのありさまには奇異の目で眺めるようになってきました。  
でもまあ、大人の猫になるまでもう少しの辛抱だとのんびり構えていたのですが、おさまるところか2匹はどどん狂暴化していくのです。  
障子の穴開けに飽きてしまうと、なんと真夜中に体当たりして障子戸を倒すのです。ものすごい物音に地震かと飛び起きてみると、暗闇で目をランランと輝かせたゲーニー君とスィーピーちゃんのしわざとわかるのです。おばあちゃんの思い出の品のお琴が立ててあるのを木登りがわりに遊んだ事も、とどまるところを知らません。  
さすがにお琴の件ではおばあちゃんも『ひどい事をする…』  
と泣くほどでした。  
先代のシュガーちゃんは、柱の爪研ぎさえ遠慮してしなかったものですが、ところがある晩、この騒ぎの中で不思議な出来事が起こったのです…



to be continued